

刊行にあたってはしがきより(抄)

日本の近世社会形成に重要な役割を果たした豊臣秀吉が発給した文書の数は、一個人の発給としては日本随一の数を誇る。その内容は、織田信長家臣の時代から始まり、関白・太閤となり、慶長三年に没するまでの秀吉の一生を物語るとともに、日本史の転換期となった安土桃山時代を解き明かす基本史料であることは言を俟たない。

これまで、多くの先学がこの膨大な秀吉発給文書の収集に取り組み、いくつもの文書集が編集され歴史研究の手がかりとなってきた。しかしながら、数千にのぼる秀吉文書が日本各地に所在するため全貌の把握も困難で、全文書の集大成には程遠い状況にあった。その点、織田信長・徳川家康の発給文書が一九七〇年代までにはほぼ集成され、文書集という形でその後の研究の出発点になっていることと著しい対照をなしている。

幸いなことに、近年の情報充実は著しく、各自治体史においては地域関連の文書調査が進められ、博物館等の展示では各地域に伝わる秀吉文書が続々と紹介されている。また、所蔵機関による史料集の刊行やインターネット等による画像公開が進んだことにより、これまで以上に秀吉文書に接することができるようになった。

本書は、三鬼清一郎編『豊臣秀吉文書目録』(一九八九年)を出発点とし、原文書・写・編纂史料などのかたちで残された秀吉文書の総体を、編年の形で提示するものである。目録発行後に確認された補遺文書や新発見文書を加え、第一巻校了時点で確認できた秀吉文書の数は七千通に及ぼし、『豊臣秀吉文書目録』の段階から千通余も増加している。地域や伝来主体をこえて、全国に所在する秀吉文書を経時的・相関的に通覧することで、新たな秀吉像や政権論に結びつき、研究者だけでなく、より多くの人々が秀吉文書に触れる機会となることを願うものである。

本書の編集にあたっては、二〇一二年度より名古屋博物館に編集委員会と事務局を設置し、構想と討論を重ね、本書のように第一巻の内容を取りまとめた。釈文・年代比定はもちろん、人名・地名等についても編集会議の意見が分かれる文書がある。諸賢の厳しいご批判を賜るとともに、第二巻以降、秀吉の行動範囲が全国に及ぶにつれ、それぞれの地域や専門テーマの研究各位のご協力をお願いする次第である。

名古屋博物館『豊臣秀吉文書集』編集委員会

豊臣秀吉文書集

全9巻

名古屋博物館編

織田信長の武将から出世し、関白・太閤として天下統一を成し遂げた豊臣秀吉。その膨大な発給文書は日本史上随一の数を誇り、これまで全貌の把握は困難であった。現在確認される七千通近くの文書を初めて集大成し、厳密な校訂により編年順に掲載。文書の初見から三十年以上の活躍を通覧でき、豊臣政権の究明や古文書研究にも寄与する待望の史料集。

◆菊判・上製・函入・平均三五〇頁
各巻本体予価8000円〜10000円
全9巻セット||本体予価85000円
(いずれも税別)

第1巻

永禄八年(一五六五)〜天正十一年(一五八三)

●第1回配本(15年1月発売) 978-4-642-01421-2
本能寺の変によって信長の一家臣秀吉の境遇は激変する。奉行人として畿内統治に臨んでいた秀吉が、中国攻めや山崎の戦いを経て武将として独立。賤ヶ岳の合戦後、信長の後継者として頭角を現わすまで、九四五点を収録。三四四頁予定
本体8000円

●続刊(毎年1冊ずつ配本予定)

- 第2巻 天正十二年(一五八四)〜天正十三年(一五八五)
- 第3巻 天正十四年(一五八六)〜天正十六年(一五八八)
- 第4巻 天正十七年(一五八九)〜天正十八年(一五九〇)
- 第5巻 天正十九年(一五九一)〜文禄元年(一五九二)
- 第6巻 文禄二年(一五九三)〜文禄三年(一五九四)
- 第7巻 文禄四年(一五九五)〜慶長三年(一五九八)
- 第8巻 年未詳
- 第9巻 補遺・索引

※各巻の構成は、変更になる場合があります。

表紙||現存最古の豊臣秀吉文書の正文部分(佐々平太他宛連署状・名古屋博物館蔵)



吉川弘文館

〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8 http://www.yoshikawa-k.co.jp/ 電話 03-3813-9151(代表) / FAX03-3812-3544 / 振替 00100-5-244 14.11

注文書

『豊臣秀吉文書集』全9巻を()セット注文します。

●第()巻を()冊注文します。

お名前 _____ お電話 _____

ご住所 〒 _____

●吉川弘文館 特約書店名

日本史上随一の発給数を誇る秀吉文書、約七千通を初めて集大成！
秀吉像を再検証し、豊臣政権を考察する必備の基本史料集！

豊臣秀吉文書集 全9巻

名古屋博物館編

第1巻

永禄八年(一五六五)〜天正十一年(一五八三)

刊行開始

2015年1月発売



豊臣秀吉像(名古屋博物館蔵)

名古屋博物館『豊臣秀吉文書集』編集委員会

- 委員長 三鬼清一郎(名古屋大学名誉教授)
- 副委員長 藤井讓治(京都大学名誉教授)
- 委員 跡部 信(大阪城天守閣)
- 加藤益幹(相山女学園大学)
- 播磨良紀(中京大学)
- 藤田達生(三重大学)
- 藤田恒春(前京都橘大学)
- 山口和夫(東京大学史料編纂所)

吉川弘文館

◆現在確認されている秀吉の発給文書約七千通を初めて集大成

◆全国各地に散在する文書を編年配列し、文書の初見から三十年以上の活躍を通覧

◆最新の研究成果に基づく厳密な考証により、年代・人名・地名を比定

◆近年の自治体史などの地域調査を反映し、できる限り原文書と照合した厳密な校訂

◆署判や文書様式の変化など古文書学研究の深化にも寄与
◆最終巻には全巻を通して人物などの情報を検索できる総索引を収録

本文組方見本
(いずれも原寸・部分)



●武将・公卿・茶人

石川数正
稲葉一鉄

今井宗久
上杉景勝

宇喜多秀家
織田信孝

勸修寺晴豊
片桐且元

加藤清正
吉川元春

黒田孝高
小早川隆景

高山右近
瀧川一益

徳川家康
鍋島直茂

丹羽長秀
羽柴秀長

蜂須賀正勝
福島正則

細川藤孝
前田利家

松永久秀
毛利輝元

●寺社
鶴寺
永平寺

園城寺
広隆寺

金剛寺
惣持寺

大徳寺
高田専修寺

東寺
根来寺

本願寺
松尾社

●郷村
山城国賀茂郷

近江国古橋郷
摂津国本庄芦屋郷

播磨国網干郷
因幡国山方之郷

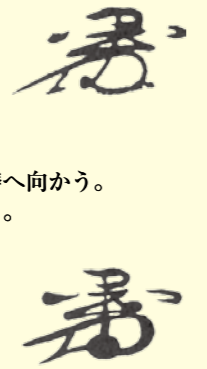
美作国内楳村
美濃国末森村

伊勢国大窪郷
越前国月尾郷

加賀国石川郡味智郷

豊臣秀吉関連年表と収録巻数

巻数	和暦	西暦	事項
第1巻	永禄8年	1565	將軍足利義輝、三好三人衆と松永久秀によって暗殺される。秀吉の名が信長の添え状に見える初見。
	永禄10年	1567	織田信長、美濃斎藤氏を滅ぼし、本拠を岐阜に移す。
	永禄11年	1568	信長、足利義昭を奉じて入京。義昭、征夷大將軍になる。秀吉、在京。
	永禄12年	1569	秀吉、生野銀山城を攻める。
	元亀元年	1570	信長、越前へ攻め込むが浅井氏の裏切りにあい退却。秀吉が殿を務める。(金ヶ崎の退き口)
	元亀2年	1571	信長、延暦寺を焼き討ち。
	天正元年	1573	室町幕府滅亡。信長、朝倉義景・浅井長政を滅ぼす。信長、浅井氏分国を秀吉に与える。
	天正2年	1574	石山本願寺挙兵。信長、伊勢長島一向一揆を殲滅。長篠の戦い。
	天正3年	1575	秀吉、中国攻めのため、京都を出発し播磨へ向かう。
	天正5年	1577	毛利勢と上月城下で戦い、秀吉軍が敗れる。
	天正6年	1578	本願寺顕如、石山退去。秀吉、三木城の別所長治を破る。
天正8年	1580	秀吉、鳥取城の吉川経家を破る。信長勢、武田氏を滅ぼす。秀吉、高松城を攻撃。本能寺の変。秀吉、中国大返し。山崎の戦いで明智光秀を破る。清洲会議。	
天正9年	1581	秀吉、高松城を攻撃。本能寺の変。秀吉、中国大返し。山崎の戦いで明智光秀を破る。清洲会議。	
天正10年	1582	秀吉、高松城を攻撃。本能寺の変。秀吉、中国大返し。山崎の戦いで明智光秀を破る。清洲会議。	
天正11年	1583	秀吉、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破る。大坂城築城に着手。	
第2巻	天正12年	1584	秀吉勢、小牧・長久手の戦いで織田信雄・徳川家康軍に敗れる。秀吉、信雄と単独講和。
	天正13年	1585	秀吉、関白。長宗我部氏、秀吉に降伏。秀吉、豊臣姓勅許。
第3巻	天正14年	1586	秀吉、家康と和睦。聚楽第着工。秀吉、太政大臣。
	天正15年	1587	島津氏、秀吉に降伏。伴天連追放令。北野の大茶会を開催。後陽成天皇、聚楽第へ行幸。秀吉、刀狩令。
	天正16年	1588	秀吉、北条氏に宣戦布告。小田原攻め。北条氏が秀吉に降伏。秀吉、家康を江戸に転封。
第4巻	天正17年	1589	千利休、自刃。秀吉、関白職と聚楽第を甥の秀次に譲り、太閤となる。
	文禄元年	1592	秀吉、諸大名に朝鮮渡海を命じる。(文禄の役)
第5巻	天正19年	1591	小西行長、沈惟敬と講和交渉。秀吉に秀頼が誕生。
	文禄2年	1593	伏見城、大規模普請を開始。秀次、高野山にて自刃。聚楽第を破却。
第6巻	文禄3年	1594	朝鮮への第2次侵攻を決定。26聖人の殉教。
	文禄4年	1595	慶長の役始まる。醍醐の花見。秀吉、没。
	慶長元年	1596	朝鮮より日本軍の撤退完了。年代比定できない文書を月日順に収録する。
慶長2年	1597	醍醐の花見。秀吉、没。	
慶長3年	1598	醍醐の花見。秀吉、没。	
第7巻	慶長3年	1598	醍醐の花見。秀吉、没。
第8巻	年未詳		年代比定できない文書を月日順に収録する。
第9巻	補遺・索引		本書刊行後の新出文書と、全巻を通覧できる索引を収録。



天正元年
五月十七日
遊佐勘解由左衛門宛書状
「寸金雜録」東大史影写
天正元年(一五七三) 七月二十八日改元
遊佐勘解由左衛門宛書状写
「寸金雜録」東大史影写
此方弥無異儀候間、可御心易候、
安田佐介人質之事、未被出之由、信長承候、如何御由
哉、早々被仰付、御進上候様ニ、私可申上旨候、可
露候、恐々謹言、
五月十七日
遊佐勘解由左衛門殿
秀吉(花押影)

天正九年(一五八一)
二五 杉原七郎左衛門宛自筆切手
名古屋博物館蔵
こめ三百石、小一郎かたへ、ひやうろ二わたし可申候、
天正九 正月十一日
七郎さへもん
秀吉(花押)
二五 祐拾宛書状「浄信寺文書」東大史影写
当寺上人跡目之事、不可有異儀候、然上者如前々寺中有才判、
諸事可有馳走候、并本堂修造其沙汰肝要候、恐々謹言、
天正九 正月十五日
祐拾
床下
秀吉(花押)

聖 河州機物神社宛禁制写「交野町史」
河州 機物神社
制禁
一陣取寄宿矢錢兵糧米之事、
一社木剪採短髪族住社之事、
一成社来參籠之輩戲之事、
右条々総見院殿仕先判例、堅令停止訖、若違犯之族於有之者、
可処嚴科条、下知如件、
天正十 七月九日
秀吉印
○この文書は検討を要する。

仍起請文如件、
羽柴筑前守 秀吉(花押)(血判)
天正拾年七月十一日
長岡兵部大輔殿
長岡与一郎殿
○神文には牛玉宝印を用いる。

聖 長岡兵部大輔他宛起請文「細川家文書」
敬白起請文前書之事
一 今度信長御不慮ニ付而、無比類御覚悟持頼敷存候条、別而
入魂申上者、表裏無抜公事、御身上見放申間敷事、
一 存寄儀、不殘心底、御為能様ニ異見可申事、
一 自然中意之族在之者、互以直談可相濟事、
右条々若偽於在之者、
聖 長岡与一郎宛書状「細川家文書」
丹後国任 御朱印旨、一円可有御知行処、明智申掠、丹波手
寄二二ヶ所城をいたし、所々知行雖仕候、今度被対 公儀無
比類御覚悟持候条、彼押領分、同家来当知行并矢野分共、我
等聞分申候条、為新知一職二可有御知行候、但松井弥人敷持
候様、右之内三分一可被遣事尤候、為其一紙如此候、恐々謹
言、
羽柴筑前守 秀吉(花押)
御宿所
天正十年 七月十一日
長岡忠興
長岡与一郎殿
御宿所